

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	道路維持課長 山崎泰助	電話番号	0852-22-5187
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	防災事業
目的	(1) 対象 道路利用者
	(2) 意図 安全で安心な道路通行空間の確保
事業概要	災害発生時における救助、救急、消防活動及び救援物資の輸送が円滑に行えるよう、道路防災総点検に基づく危険箇所の道路防災対策を行う。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 道路防災危険箇所整備率（緊急輸送道路上）	目標値		56.0	60.0	63.0	68.0	%
	式・定義 対策完了箇所数（累計）／要対策箇所総数（635ヶ所）	取組目標値						
		実績値	52.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	1,985,049	3,418,143
うち一般財源 (千円)	49,271	106,517

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成8・9年度の道路防災総点検に基づく、要対策箇所（2,136ヶ所）の防災工事は、緊急輸送道路上の箇所を重点的に進めている  
 平成27年度末で、全体要対策箇所2,136ヶ所のうち、786ヶ所（対前年+33ヶ所）の対策が完了した  
 全体整備率＝対策済箇所数÷全体要対策箇所＝786ヶ所÷2,136ヶ所＝37% 未整備箇所数1,350ヶ所  
 そのうち、緊急輸送道路上では要対策箇所635ヶ所のうち、330ヶ所（対前年+23ヶ所）の対策が完了した  
 緊急輸送道路上整備率＝緊急輸送道路上対策済箇所数÷緊急輸送道路上要対策箇所＝330ヶ所÷635ヶ所＝52% 未整備箇所数 305ヶ所  
 対策済箇所数の年次目標は、H28：355 → H29：380 → H30：405 → H31：430（成果参考指標はこれを要対策箇所数で割ったもの）  
 今後、落石事故再発防止検討委員会の議論を踏まえ、事業の進め方を見直す予定

6. 成果があったこと（改善されたこと）

緊急輸送道路上の危険箇所の整備が、概ね計画どおりに進めることができ、災害発生時における緊急輸送道路の信頼性が着実に向上している

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」  
 限られた予算のなかで、概ね計画どおりに進めることができてきているものの、毎年、20ヶ所程度の進捗であり、緊急輸送道路の対策に集中したとしても、残り305ヶ所の整備に早くても約15年かかる。  
 一方、危険箇所以外での落石や土砂崩れの実績が多く、目標達成への影響が課題

②困っている状況が発生している「原因」  
 対策工事着手にあたり、現地詳細調査を行った際に、予防的観点から危険箇所の前後も含めて対策を計画しており、1ヶ所当たりの工事費が、当初予算額より増加する傾向がある

③原因を解消するための「課題」  
 対策実施時に、要対策箇所の施工範囲の絞り込み・工法選定をさらに行う  
 また、緊急輸送道路上の対策を優先的に行っているが、さらなる絞り込みを考慮する

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

予防的観点から対策計画を立案するが、個々の対策箇所の緊急性、危険性をさらに分析する  
 そして、施工範囲の絞り込み・工法選定を行い、1ヶ所当たりの工事費の抑制し、対策の促進を図る  
 また、優先的に整備を行っている緊急輸送道路上の危険箇所の中でも、1次路線をさらに優先して整備を行い、整備効果をさらに高める  
 落石事故再発防止検討委員会の議論を踏まえることとなるが、これからは落石履歴データを利用した緊急性の高いところから事業を進める予定

9. 追加評価（任意記載）

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。